

あ い の

Vol.11

2012. 4月 発行

【チューリップ】

Contents

- ・当院のNSTについて
- ・婦人科紹介
- ・就任医師のご紹介
- ・放射線科より新しい装置のお知らせ
- ・リハビリテーション科だより

当院のNSTについて

当院におけるNSTの取り組み

NST (Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム) とは、栄養不良、あるいはその危険性が高い患者様に対して、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多職種が共同して、病態と栄養状態に関する様々な問題を検討し、栄養改善をはかるチームのことであり、栄養改善によって、疾病の改善を助けるとともに、栄養不良による合併症の予防や、QOLの改善が期待できるとされています。



当院においても、栄養改善をはかることが、病気やケガの治癒促進や、栄養不良による熱発や褥瘡の予防に少しでもつながればと思い、2年前（平成22年4月）から、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医事課からなる栄養サポートチームを結成し、活動をしてまいりました。昨年4月からは、院内スタッフ向けに“NSTだより”の発行を開始し、栄養療法に関する情報提供を始めました。



当院NSTの目的 当院の基本理念は「病める人々を医やすばかりでなく、慰めるために」というものです。これに基づいてやさしい医療を提供するために、患者様ひとりひとりに対して、

適切な栄養管理の提案をさせていただいて栄養状態を改善し、予後の改善やQOLの向上を目指します。特に、高齢の患者様には、自立した日常生活を維持できる期間を少しでも長くできるようサポートします。

効果のあった患者さんについて 栄養不良の原因の1つに食欲不振があります。

しかし、一口に食欲不振といっても、食事がとれない理由は病態によって様々です。うつ病があって食べる気になれない人、癌の終末期で食べられる食品が限られている人、上手く飲み込みができない人など多岐にわたります。しかし、NST活動をすることで、ひとりひとりの患者様に合わせた細やかな食事の提案が出来、患者様の満足度の向上と、経口摂取量の改善が見られたケースがありましたので、紹介させていただきます。

●Aさん 79歳 女性 悪性腫瘍で入院中

前医より食欲不振あり、療養目的で当院へ入院されました。

素麺を1口食べる程度で、おかずはほとんど食べられていませんでした。

身長150cm、体重48.5kg、BMI 21.6、Alb値3.6g/dl。

必要エネルギー量を1480kcalと計算しました。しかし、実際の摂取エネルギー量は270kcalと低いものでした。そこで食事内容の検討を行いました。

(嗜好の確認)

- ・ 麺類は比較的食べやすい、ご飯はおにぎりにしてほしい
- ・ 肉は食べたくない、冷たいおかずの方が食べやすい

(食事内容の調整)

- ・ 昼夕の食事に麺をつけ、昼は温かいうどん、夕は冷たい素麺というように、温度差をつけて提供する
- ・ 肉料理はやめて代わりに冷奴や卵豆腐をつける



NSTスタッフが病室を訪れて様子を伺ううちに、徐々に食事摂取量が増え、患者様に笑顔が見られるようになりました。介入終了後、リハビリも始まり、ベッド上で安静が必要だった入院当初と比べ、現在では歩行器で歩けるようになるまで回復されています。

今後の展望 栄養サポートチーム加算の改定に見られるように、NSTを推進する動きが高まってきました。当院でも、それぞれの職種でNST稼働施設認定のための研修を受講して、専門性をさらに高め、チームでより良い栄養サポートを提供できるよう努めていきたいと思っています。

婦人科紹介

最初に自己紹介をさせていただきますと、私は平成12年大阪医科大学産婦人科学教室に入局し、婦人科腫瘍を主として診療しておりました。平成21年より藍野病院に入職し現在に至っております。

当科外来では一般婦人科を中心に、子宮頸癌検診（茨木市、摂津市）、子宮頸癌ワクチンを行っております。婦人科腫瘍等の手術が必要な症例では、当院に入院して頂き手術も行っております。

特に近年高齢化に伴い骨盤臓器脱にお悩みの方が増加傾向にありますが、一昨年前よりメッシュを用いたTVM手術に取り組んでおり、好評を頂いております。

また、あまり知られてはおりませんが、妊婦検診も受け付けておりますのでお気軽にご相談ください。毎月第4水曜日には大阪医科大学健康科学クリニックより後山先生に来て頂き、内分泌および漢方外来を開設しております。その他出来る限りご要望にはお応えしたいと思いますので、お困りの事がありましたらお気軽にご相談下さい。今後とも宜しくお願い致します。



婦人科医 西山浩司

就任医師のご紹介



内科医 市居良成

平成24年2月より内科常勤医として当院に赴任いたしました市居良成です。

昭和61年に大阪大学を卒業しました。

専門は内科・循環器です。

狭心症・不整脈・心不全の方をご紹介して頂ければ、当院及び当院と連携している病院で検査・治療をすすめていきます。

どうぞ宜しくお願いします。

リハビリテーション科 だより

～作業療法～

作業療法では、食事をする、洋服を着る、料理をつくるなど日常活動の動作や仕事、遊びなど、人が行うすべての諸活動を「作業活動」と呼び、治療や援助の手段とします。「身体」と「精神」に障害がある方を対象に、その人らしい生活の獲得を最終の目標とし、基本的能力、応用的能力、社会的適応能力の回復や改善の指導を行っています。

当院の作業療法科は身体障害、認知症と小児の発達障害の3部門に分かれています。身体障害部門では、理学療法士や言語聴覚士と共に、脳血管疾患や神経難病（パーキンソン病など）の回復期から維持期の患者さんに対して日常生活能力の維持・向上訓練や上肢・手指の骨折に対する術後の機能回復訓練などを行っています。また、「もの忘れ外来」に受診される外来患者さんの認知機能検査や高次脳機能評価なども行っています。



認知症部門では、各認知症治療病棟（4病棟）と精神療養病棟（1病棟）に作業療法士を専従に配置しています。主治医、病棟看護師や臨床心理士と連携し、認知症診断に応じた個々の症状や能力の評価を行い、保たれた能力を十分に発揮出来るように実際の生活場面で訓練を行っています。また精神症状や心理面の安定化に向けて環境調整にも力を入れています。

小児の発達障害の部門では、早期に診断を受けても療育を受けられる場所が少ない高機能の方を対象にしています。小児神経専門医と「いかに社会への適応性を獲得するか」を考えながら個別に治療を行っています。各部門ともに、退院や入所、入学に向けての家族・介護者への指導・支援や生活環境調整なども作業療法士の重要な役割と考え、地域や福祉の方と連携をとりながら行っています。当院での医療体制は身体・精神の両面からの治療を提供出来る環境にあり、作業療法もチーム医療の一分野としてその特性と専門性を活かし、患者さんに有益な治療を提供することにスタッフ一同日々努めています。



～日本老年精神医学会～

当院は日本老年精神医学会の認定施設です。
当院長 杉野正一は指導医として認定されています。



お問い合わせ 総合受付

TEL: 072-627-7611 (代)

FAX: 072-627-3627

入院のご相談は
「地域医療連携室」まで

季刊誌「あいの」をご覧いただき有難うございます。早いもので発行から3度目の春を迎える事が出来ました。春の訪れは春のあらしを連れてくる。春一番、春二番が吹き荒れ、雨降る日が続き、寒さ暖かさを繰り返す。安定しない天気を繰り返す。このように、寒さからの脱皮はそう簡単にはいかないものです。が、今年は寒さこそ厳しい日が続きましたが、例年になく春一番が吹かず、ひっそりと春の訪れが来たかのように感じられました。きれいだっただけの花も咲きほころび、新年度の始まりのうねりを感じつつ、この季刊誌「あいの」も日々発行に向けての作成を行っております。皆様にご満足頂く事を念頭に発行いたしました。今回の特集は栄養サポートチーム (NST: Nutrition Support Team) について取り上げ、活動について皆様に広くご理解いただけるように努力いたしました。編集委員一同

編集後記